※令和４年度以降入学生用

学校番号	301

令和８年度　情報科

教科	情報	科目	情報Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高校情報Ⅰ　新訂版」　（実教出版）						
副教材等	「ベストフィット情報Ⅰ New Edition」（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

メディア作品の制作、データ分析、プログラミングなどの体験的な実習を通じて、コンピュータの仕組みや情報社会について理解を深め、問題解決に向けて情報技術を活用する力を身に付けましょう。また、コミュニケーションを意識した情報伝達や情報表現を行う力も身に付けましょう。

2　学習の到達目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

a：知識及び技能
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
b：思考力、判断力、表現力等
様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
c：学びに向かう力、人間性等
情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	情報社会と問題解決	○情報化による生活の変化 ・知的財産権 ・個人情報の保護 ・情報セキュリティ など	a: 情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解している。 b: 情報に関する法規や制度、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどそれらの背景を捉えて、考察することができる。 c: 情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。	・実習課題 ・定期考査	・定期考査	・ふりかえりの記述
	コミュニケーションと情報デザイン	○ポスター制作 ○情報のデジタル化 ・数値、文字、画像、動画、音のデジタル表現	a:メディアの特性および効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し、表現する技能を身に付けている。 b: メディアの特性および効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現することができる。 c: よりよいコミュニケーションを行うために自らの取組を振り返り、評価・改善しようとしている。	・実習課題 ・定期考査	・パフォーマンス課題 ・パフォーマンス課題の相互評価 ・定期考査	・ふりかえりの記述 ・パフォーマンス課題の自己評価
二学期	コンピュータのしくみ	○コンピュータの構成と動作	a: コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の表現について理解している。 b: コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察している。 c: コンピュータで扱われる情報の特徴をふまえた情報活用を行い、情報社会に主体的に参画しようとしている。	・定期考査	・定期考査	・ふりかえりの記述

※令和４年度以降入学生用

二学期	ネットワークと情報システム	○ネットワークの仕組み ○情報システム ○データベース	a: 情報通信ネットワークの仕組みやセキュリティを確保するための方法や技術、情報システムについて理解している。 b: 目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考えている。 c: 情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。	・定期考査	・定期考査	・ふりかえりの記述
	プログラミングとシミュレーション	○アルゴリズムとプログラミング ・Python でのプログラミング ○モデル化とシミュレーション	a: アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータやネットワークを活用する方法について理解し技能を身に付けている。 b: 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータやネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善することができる。 c: プログラムの改善などを通じて情報社会に主体的に参画しようとしている。	・実習課題 ・定期考査	・定期考査	・ふりかえりの記述
三学期	データの活用	○データの分析 ・回帰分析 ・クロス集計	a: データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付けている。 b: データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善することができる。 c: データを粘り強く多面的に精査し、データに含まれる傾向を自己調整しながら見いだそうとしている。	・実習課題 ・定期考査	・パフォーマンス課題 ・パフォーマンス課題の相互評価 ・定期考査	・ふりかえりの記述 ・パフォーマンス課題の自己評価

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度